

# The Nara Anesth Times

## NEWS LETTER Vol.16

奈良県立医科大学 麻酔科学教室 情報誌

Nara Medical University Department of Anesthesiology

発行所: 奈良県立医科大学 麻酔科医局 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840  
TEL: 0744-29-8902 FAX: 0744-23-9741 HP: <http://www.naramed-u.ac.jp/~anes/>

### ■ 奈良医大がかかえる経営上の問題点

奈良県立医科大学附属病院 病院長 古家 仁

奈良医大の病院長になってから約5年半、その間一番力を注いだのが病院経営でした。他の大学病院でも同じ状況ですが、医師は大学人として診療、研究、教育をするだけでなく病院の経営にもかかわっていくことが求められます。その主たる理由はまたあとで述べますが、病院長の大きな役割として経営があり、病院全体の陣頭指揮をとって方向を示すことが大きな使命となっています。私はそのために前のNews Letterに書いたようないろいろなプロジェクトを開始し、平成24年から27年までの4年間は病院として黒字を達成できました。とくに26年、27年は今までに見られないような収入を上げましたが、平成28年は残念ながら赤字に転落してしまいました。その大きな要因はE棟建設に多額の借金をしたことです。一般社会では大きな投資をするときにはその投資した金額以上の利益を生む予想のもとに投資をします。それは大学病院でも同様なのですが、E棟建設に関してはそういった収支予想をたてずに行われていました。私が病院長になる前からある程度決まっていた路線があったのですが、建設に至る過程でそれに気がつかなかった私にも大きな責任があります。E棟という建物の建設費、さらにE棟で使用する医療機器、この二つの要素が非常に高額で、それが28年度から大きくのしかかってきています。自分の家庭のことで考えると、投資のために借金をするときは借金する前にその返済計画を立てておくのが当然のことです。大学も同じなのですが、本学ではそれが抜けていました。

どういうことかということ、独法化した後も独法化の前と同様何をするにも県が面倒を見てくれる、という意識が多くの教職員だけでなく執行部にもあったのだと思います。しかし独法化の後、大学は県から借金をする形で事業を行っています。その借金の1/4を県は見てくださいますが残りの3/4は大学が稼いで返していく必要があります。E棟には建物として80億、医療機器等で50億、計130億かかっています。全額の3/4ですから、約100億返さなければなりません。何年で返すのか、というと、減価償却という考え方がありますが、要は、本学の場合建物は40年で、医療機器は6年で償還するという形で、建物が毎年2億、備品が8億、計10億が毎年負担になってくるわけですから。ここに毎年購入している通常備品、金額は6億

円から10億円ですが、その額の備品を購入しています。これも3/4を償還する必要があります。平成29年度では6.2億円になります。結局奈良医大は、平成29年度は16.2億円の返済があるということです。これを病院の収益で返さなければなりません。

この解決のために病院ができることは、収入を増し支出を減らすしかありません。そのため今までのプロジェクトをさらに強力に実行する必要があります。一般的に病院の収入を上げる方法として、病床の稼働数を増やすこと、備品につき込んだ費用をその備品で稼ぐこと、そして最も有効な手段が手術件数を増やすことです。とくに本院ではE棟につき込んだ費用をE棟でできるだけ稼ぐ必要があります。すなわちE棟で最も多くの費用をつぎ込んだりニアックの稼働を上げる、手術室からの収入を増やす、NICU、GCU、産科、婦人科、小児センター、こういった病棟の稼働率を上げ収入を増やす、ということになります。もちろんE棟だけではむづかしいので全病院挙げての取り組みが必要になります。

麻酔科に大きく関係するのは手術件数を増やす、ということになります。昨年手術件数を増やすために同時稼働手術室数を2室増やしました。結果として、麻酔科医の負担が増えたこととなります。もちろん麻酔科医の定数も3名増やしましたが、まだ足りない状況だと思います。ただ、奈良医大だけでなく急性期病院の生命線を麻酔科が握っている、といっても過言ではありませんから、麻酔科の皆さんは病院の命運を握っていると考えて頑張ってもらいたいと思います。病院長が麻酔科出身ということで麻酔科の皆さんには我慢を強いていることだと思います。申し訳ないのですが、数年頑張ってください。よろしく願います。その間に県とも交渉し、また支出を減らし、収入を上げるために病院の効率性を上げて赤字を解消していきます。

いろいろ問題点も出てくると思います。わたくしの力で解決できることにはすぐ対応するつもりです。何かあればぜひ伝えてください。

### ■ 医局員の幸福度向上を目指して！

奈良県立医科大学麻酔科学教室 教授 川口 昌彦

日頃は日常業務で大変お忙しいことかと思えます。また、その中で医局運営にご協力いただきありがとうございます

います。さて、平成29年10月10日より日本専門医機構の専門医制度に向けた専攻医の募集が開始されました。地域格差を是正するため、東京、神奈川、愛知、大阪、福岡の5都市では過去3年の実績を超えないよう定数配分されました。奈良医大では、非都市部ということで比較的影響は少なく、12名という定員数になりました。ただ、今後の実績によりその定員数は年次的に調整されていきます。また、プログラム評価も行い、その結果を段階的に公表する予定で、専攻医の方にとって必要とするゴールを明確にし、その内容が適切に習得できるプログラムの実践が必要とされてきます。我々のプログラムにきてもできないことがある、というような事にならないよう、関連施設の先生方と協力し、具体的な内容や方策を調整できればと思います。必要であれば、研修のための関連施設の追加やシミュレーション教育の強化なども考えております。若い先生方から選んでもらえる、全国からでも来てもらえるような教育プログラムを提供できればと思います。

病院の改築、手術室の増加、手術件数の増加、集中治療室やペインクリニックの開設、緩和ケアの業務拡大、ERや救急部門との連携、などを達成するための人員要請を多数いただいております。麻酔科としては非常にありがたいことだと感じております。一方では、ワークライフバランスが崩れ、過重労働にならないような方策を取り入れていかなくてはなりません。まずは、チーム医療の推進です。麻酔科だけでなく、看護師、薬剤師、臨床工学士、臨床検査技師、事務、研究員の方などと、多職種で取り組むことで、医療の質や安全、業務分担が可能となります。奈良医大ではすでに麻酔科MEさんに活躍してもらっていますが、平成29年からは麻酔科看護師さんも一人、我々の組織として働いてくれています。平成30年4月からは周麻酔期看護実践コースが開設され、正式に病院が認定する周麻酔期看護師を育成する予定です。手術決定時から退院までの周術期管理、集中治療管理などでの活躍を期待しています。また、麻酔科医確保の点で、各関連病院でも医局の一員としてともに働いていただける方をリクルート可能とする案も出ています。なかなか増員ができない場合、皆さんに多大な負担をおかけする結果となるため、早急に進めていきたいと思っております。すでに、暁明館病院でそのトライアルを行い、12月より奈良医大麻酔科の医局員として勤務いただける先生が来ていただけることとなりました。若い方だけでなく、ベテランの指導医の先生、バリバリと働ける専門医の先生、ママ麻酔科医の先生など、医局の一員として仲間に入っただければと思います。

最近では、幸福度 (well-being) に興味を持っています。もともと周術期の患者さんの術後生活機能を改善し、幸福度を高めるための戦略や研究を企画しておりました。がんの患者さんだけでなく非がんの患者さんでお緩和ケア、集中治療における終末期医療、慢性痛における集学的治療など、幸福度は麻酔科として目指すべき究極のアウトカムではないかと感じています。そして、患者さんだけでなく、病院職員の幸福度、麻酔科医の幸福度などを向上していくことが、我々医療者が目指すべき

重要課題ではないかと思っております。私は、附属病院の医療安全・質評価・教育対策プロジェクトのリーダーをさせていただいておりますが、その中でスマイルプロジェクトを立ち上げ、今年は職員1000名の笑顔度や幸福度を調査する予定にしています。麻酔科の先生にも受けていただきます。今後、笑顔度や幸福度が上がる方策を少しずつ実施し、働きたい病院、一緒に働きたい仲間、そして自分が医療を受けたい場所になればと思います。また、明日から笑顔で臨床・教育・研究を進めていただければと思います。よろしく申し上げます。

## ■ 人工知能を利用したコクラン系統的レビュー作成

奈良県立医科大学麻酔科学教室 田中 優

人工知能 (Artificial Intelligence) は多くのひとの興味を引く分野であると思っております。医療の分野では白血病の診断にIBMのワトソンが活躍したことが話題になりましたし、人工知能が活用されてきています。系統的レビューはあるリサーチクエッションに対して文献をくまなく調査し、ランダム化比較試験 (RCT) のような質の高い研究のデータを、出版バイアスのようなデータの偏りを限りなく除き、分析を行うことで合理的な意思決定に役立つ情報を提供するものです。

コクランは医療における介入の効果をまとめた系統的レビューを作成・維持し、その利用可能性を高めることによって人々の医療に関する正しい知識に基づいた決定を手助けする国際的な非営利団体ですが、その使命をより活発にするために2020年までの計画を有しています。それを達成するプロジェクトの一つがProject Transform projectであり人工知能プロジェクトとEditor in Chief Dr. David Toveyも呼んでいます。コクラン系統的レビューは数年作成にかかるのですが人工知能を利用して半年から一年の間に制作することがますます求められています。情報専門家がAIの分野に進出し、人道的なもの機械的なもの間のパートナーシップが期待されています。コクランでは系統的レビューを作ること、ステロイドが未成熟な肺をもつ新生児を救うことがはっきり結論づけられたことでこのことで数十万から数万の新生児が救われたということが知られています。コクランでは人工知能搭載WEBとしてCovidenceやepi reviewerも紹介しています。Covidenceはcochrane review作成により特化した機能を有しています。より複雑な系統的レビューを作成するにはEppi Reviewer 4の使用を進めています。皆様のお役にすこしでもたてば幸甚です。

## ■ 開業後雑感

岩田ペインクリニック内科 院長 岩田 敏男

昨年末まで12年間勤務した奈良県西和医療センターを退職後、今年1月に横山クリニックに入職、4月から継承開業いたしました。

現在開業後約半年経過したことになります。

開業を決めるにあたり考えた事はここでは書ききれま

せんが、勝手をお許しいただいた川口教授、ペインクリニックンションとしての知識、技術をお教えいただいた橋爪先生には心から感謝しています。

開業後3カ月程は毎日本当に色々な事（ほとんどがトラブル）が起きました。

各役所に対する諸届け、経理や労務を始めとして「知らないこと」「慣れないこと」の連続で、これまでいかに世間知らずで生きてきたのかを痛感させられました。

透視装置を入れてようと院内全面改装を計画し、G.W.を挟んで11日間で院内の物品運びだし、改装工事、物品を戻すという強行軍で、スタッフ皆青息吐息でしたがなんとか力を合わせて乗り越える事が出来ました。

診療に関しては未だ細部までルーチン化されているわけではなく、落ち着いているとはとても言えませんが、経験豊富なスタッフ皆で話し合いながら何となく最近こ



ういう形かなというのがやっと見えてきたような気がします。

内科診療、検診、校医、往診など、勤務医であれば経験しなかった事にも携わり、横山先生が残してくださったたくさんの財産と呼べるもののおかげで貴重な経験ができています。

開業すると決めて準備を進めていく中で、あるいは開業後の医師会においても、西和医療センターを始め今まで一緒に働かせていただいていた各病院の先生方、母校である近畿大学同窓生の勤務医、開業医の先生方に非常に多くの激励、アドバイスをいただきました。改めて人の輪の有難さに驚いたことも多く、感謝しております。

今後は医療情勢や日本経済に左右される人生となります。行政の施策はこの先明るいことはないと思いますが、やりがいをもって自分が信じる「必要とされる医療」を実践するという心だけは持ち続け、ついてきてくれるスタッフとともに理想のクリニックに一步でも近づける様、今後も努力を続けるつもりです。これからも変わらずご指導ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。

◆連絡先◆

 **岩田ペインクリニック内科**

〒636-0002

奈良県北葛城郡王寺町王寺2丁目6-4 クレール吉田3F

願いをこめた新薬を、  
世界のあなたに届けたい。

「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」

わたしたちは、新薬の開発に挑み続けます。

待ち望まれるくすりを、一日でも早くお届けするために。

**ONO** 小野薬品工業株式会社



## ■運命の相手

奈良県立医科大学麻酔科 西和田 忠

長篠の戦いの織田軍とかけまして、西和田の研究と解く。その心は・・・？

どちらもガンが必須です・・・しょうもなくすみません。

自分が行っている研究は癌細胞を用いた基礎研究です。瓦口先生にご指導を頂きながら、行っている研究は大きく分けて2つです。1つ目は麻酔科関連薬剤が有する神経細胞傷害に対する保護作用物質の検討、2つ目は癌細胞に対する麻酔科関連薬剤の及ぼす影響についてです。

まず、神経細胞に対する全身麻酔薬・局所麻酔薬の毒性に対する保護作用物質の検討について科研費を頂き研究しました。使った細胞はSH-SY5Yというヒト神経芽細胞株で、癌細胞ですが神経特有の性質を有しています。その結果、ブピバカインによる細胞毒性に対し、モルヒネ、ネクロスタチン（近年新たな細胞死の概念として提唱されているネクロトーシスの抑制薬）がそのviabilityを改善した（保護した）ものの、細胞傷害度をみた研究では逆に傷害度が増加していました。結果に納得いかないものの、再現性もあり、一旦お蔵入りして、次にトラマドール及びその活性代謝物（Oデスメチルトラマドール）が癌細胞に与える影響についてヒト肺癌細胞株H358を用いて研究しました。その結果、臨床的な濃度で、それらが癌細胞のviabilityを低下させることがわかりました。ただ、有意差はあるものの極端な低下ではなく、その機序を明らかにしようとした研究（アポトーシス増加もしくは細胞増殖能抑制）では、明らかな差を検出できませんでした。現在は口腔癌細胞に対する麻酔科関連薬剤の影響について科研費を頂き研究しつつ、もう一度神経保護についても研究をしているところです。

プレイボーイとかけまして、西和田の研究と解く。その心は・・・？

どちらも相手をコロコロ替えているでしょう・・・しょうもなくすみません。

細胞を用いた研究は、動物を殺生しなくていいというメリットはあるものの、①細胞播種、②24時間後に薬剤暴露、③6・24・48時間後に測定というスケジュールが多く、研究日1日に集中してできないのが難点です。症例の合間や当直中にこっそり研究室に行っていますので、大学の皆さんにはご迷惑をおかけしております。

早く浮気をしないでいい相手と巡り会いたいと思いつつ、コツコツやっていきたいと思えます。

## ■関西ペインクリニック学会学術集会を振り返って

奈良県立医科大学 麻酔・ペインクリニック科 藤原 亜紀

第47回 関西ペインクリニック学会 学術集会が大阪国

際交流センターにて2017年5月13日に開かれました。会長は当院ペインセンターの渡邊恵介先生が務められました。来場者数は254人でした。今学会のテーマは「痛み治療のA・ラ・カルト」で、様々な痛み治療のコンテンツを組み合わせるオーダーメイドの診療を提供しようのメッセージがこもっていました。シンポジウムおよびランチョンセミナーでは、診断・治療ともに様々な分野（画像診断、透視下ブロック、エコー下ブロック、心理、リハビリなど）の一線でバリバリと臨床をこなしておられる先生方にとっても興味深い講演を聞くことができました。また、一般演題も優れた演題がたくさん集まり、会場では活発な質疑応答がなされていました。モンゴルからの留学生のBaagii先生は、渡邊先生、深澤先生、中本先生のご厚意で超音波ガイド下神経ブロックのハンズオンセミナーを受講することができました。講師の先生方はお忙しい中、彼女のために英語で解説をしてくださり（英語の資料を作ってくださった先生もいらっしゃいました）、大変勉強になったと喜んでおられました。モンゴルでは神経ブロックは専らX線透視下でおこなうため、超音波ガイド下ブロックは皆無だそうです。モンゴルは女性医師が7割以上を占めており、妊娠と被曝はペインクリニックの発展を妨げる大きな問題であったようです。彼女が当院での経験を活かしてモンゴルでの超音波ガイド下ブロックのパイオニアとなり、今後のモンゴルのペインクリニック発展に貢献することを期待しております。

最後になりましたが、本学会開催時には、奈良医大麻酔科医局の皆様にご尽力を賜りました。皆様のご協力のおかげで大きなトラブルなく盛況のうちに会を終えることができました。本当にありがとうございました。

## ■アジア神経麻酔学会に参加して

奈良県総合医療センター 麻酔科 大井 彩子

2017年8月18,19日にシンガポールで開催されたAsian Society of Neuroanesthesia and Critical Care (以下ASNACC)に参加してきました。私は「Incidence of postoperative neuropathy due to epidural anesthesia」という演題でポスター発表を行ってきました。

学会会場はシンガポール川に面したホテルで、ホテルの2階が会場となっていました。3つの部屋が講演会場となっており、それとは別の小さな部屋と廊下がポスター



会場で、空いたスペースに企業展示と軽食コーナーが設けられていました。

私にとってはASAに続く3回目の海外学会参加でしたが、英語が不得意であることに加え、アジア人の英語が非常に聞き取り辛く、講演内容はほとんどわかりませんでした。他の先生の話によると、発展途上国から参加の先生方も多く、いかに医療資源を抑えて医療を行うかというような話をされていたようです。また、今回のASNACCは奈良で行われるため、川口先生はロビー活動にお忙しくされていました。

今回の学会では一般のポスター発表は講演と講演の間のcoffee brakeの時間に組み込まれていました。他の先生の発表の時刻が前日に変わったり、私のセッションでは時間になっても座長が現れず、15分ほど遅れて現れたおそらく座長であろう先生に「私の発表聞いてください！」とアピールしないと聞いてもらえなかったりと、色々トラブルはありましたが、例のように質疑応答は川口先生に助けをいただいで無事終わることができました。ただ、coffee brakeに提供される飲茶は非常においしかったです。

ではいくつか今回の発表の反省点を挙げたいと思います。①これは毎回なのですが、ギリギリまでポスターが出来上がらなかったこと（恵川先生申し訳ありません。）②ポスター作製が遅かったことに加え、印刷会社のお盆休みをチェックしておらず、ポスターが届いたのが出発当日の昼だったこと③最終的に届いたメールをチェックしておらず、演題登録時に届いたメールから発表日時も発表時間（なんと5分から3分に！）も変わっていたことに現地で気づいたこと④お忙しい林先生の部屋に朝6時半から入り浸り、読み原稿を一から作り直していただいたこと⑤結局その原稿を完璧には覚えられず、吉谷先生に「もう少ししっかり練習しましょう」と言われたことです。この反省を次に生かしたいと思います。

余談ですが、今回私は人生で初めて一人で海外を往復し、余分に1日いただいたお休みに一人で観光して、年齢30にして少し大人になれた気がしました。林先生に「毎日アメリカ人を見ているからお前が細く見える」などと言われながら、新城先生と川沿いを歩きまわったり、川口先生や循環器病センターの先生方とシンガポールの有名料理をたくさん満喫したり、お腹も心も成長できたと思います。

最後に、決して人員が豊富ではない中、私を海外の学会に快く送り出してくださった、下村先生をはじめとする奈良県総合医療センターの先生方には本当に感謝しております。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

## 「特定行為に係る看護師の研修制度」に参加して

奈良県立医科大学附属病院 救急他科外来 山室 俊雄  
諸海外にはPA (Physician Assistant) ・NP (Nurse

Practitioner) と呼ばれる資格があります。両者は、臨床医と看護師の中間とされており、そのMid-Level Providerは臨床において非常に重要な役割を果たしています。一方日本国内では、Mid-Level Providerに関しては紆余曲折の真ただ中です。本研修は、医師不在でも一定レベルの判断ができ、手順書に沿って迅速な対応をとることで在宅医療を推進していくというのが導入の主たる目的です。2025年までに10万人を目標にこの研修がスタートしましたが、現在修了者は全国で200人余り。当院の看護師の中でも大半が「…で、一体何する人なん？」というのが現状です。そんな中、今年も8月から2期生の研修がはじまり、今年も辻本さん（C3）、石西さん（C3）と私の3名が麻酔科でお世話になっています。

10年ぶりのICUに戸惑いつつも、井上先生の多くは語らないが底知れぬ包容力で順調に研修を進められています。また、初めてのOPE場では、身も心も迷子になりつつ日々を送っていました。OPE場初日、麻酔薬を投与し筋弛緩を入れ、呼吸がとまったところで「はい、んじゃよろしく。」と行ってマスクを渡してきた阿部先生を一生忘れません（笑）。「焦るな。大丈夫、構えてろ。」麻酔科医が焦っているとOPE場が浮足立つことを懸念して、後期研修医を一言で落ち着かせた松成先生。正直惚れました。すでに実習開始から2カ月が経ち、麻酔科医の偉大さを日々実感しています。特定行為の手技の一つ一つももちろんですが、麻酔科の先生方一人ひとりの周術期にかけける思いを直に感じる事ができ、実習必須項目以上に得るものが大きい毎日です。あと残り2カ月余り、悔いの残ることのないよう一つでも多く吸収していきたいと思います。

最後になりましたが、古家病院長はじめ、川口教授、井上先生、麻酔科の先生方にご協力いただき、この研修は成り立っています。本当に感謝しています。ありがとうございます。実習は12月で終わりますが、その先もどうぞよろしく願いいたします。

## 自己紹介



坂本 悠巨

今年度入局させていただきました、坂本悠巨です。出身は京都で中学、高校は奈良の学校に通っており、出身大学も奈良医大です。学生時代や麻酔科研修するまでは麻酔科についてはほぼ勉強したことなく、将来の選択肢として考えたこともなかったです。しかし、実際に研修してみると自分にあっていると感じ、さらに初期研修をおこなった大阪鉄道病院の岩阪先生にその魅力を教わって麻酔科を専門にしたいと考えました。

まだまだ未熟であり、大学や関連病院の先生方にご迷

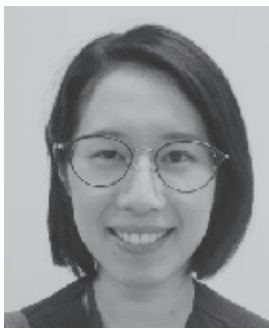


惑をかけることも多いと思いますが今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。



城本 菜那

今年度から奈良医大麻酔科で研修をさせていただいています、城本菜那と申します。奈良医大を卒業し、初期研修の2年間は大阪市西淀川区にある千船病院で過ごしました。病床数約300床の地域に密着した病院で、大阪の下町の雰囲気溢れる中で研修をしていました。麻酔科の先生方の豊富な知識や技術、きめ細やかな心配りに感動し、麻酔科医になることを決意しました。まだまだ未熟ですが、日々の症例を大切に学んでいきたいと思っています。ご迷惑をお掛けしますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



立入 由佳

後期研修1年目の立入由佳と申します。奈良県立医科大学を卒業し、附属病院で初期研修を行いました。様々な診療科にて研修させて頂きましたが、麻酔科における全身管理の奥深さや、サブスペシャリティの幅の広さに魅了され、麻酔科医になりたいと感じました。日々の症例を通じて多くのことを学び、自身の術中管理や、術後の患者様の様子で一喜一憂する毎日です。また同期入局の人数が多いにもかかわらず、全員にまんべんなく症例が割り当てられるよう工夫して下さっているため、同期とはお互いの失敗や成功を共有し、そこから学び、刺激しあっているのではないかと思います。日々多くの先生方に支えられ、充実した毎日を送っています。まだまだ至らぬ点だらけですが、これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



廣嶋 麻那

初めまして、平成29年入局の廣嶋麻那と申します。平成27年に奈良県立医科大学を卒業しました。大学時代は空手道部に所属していました。市立岸和田市民病院での2年間の初期研修を経て、この度奈良に帰ってきました。出身は広島県でも岸和田市でもなく大阪市です。市立岸和田市民病院での麻酔科研修は4ヶ月間でしたが、同院は心臓血管外

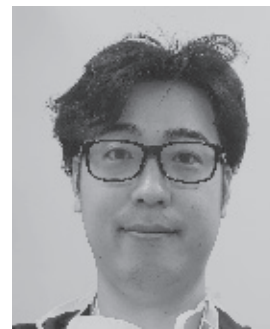
科・呼吸器外科を含めほとんどすべての外科が揃っていたため、様々な麻酔を経験させていただきました。そんな中、循環・呼吸管理ができるようになりたいと思い麻酔科を志しました。

現在は大学で後期研修を行っています。手技や導入・抜管など難しいと感じることもありますが、先生方に指導していただきながら充実した楽しい日々を過ごしています。早く一人前になれるよう頑張りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願いいたします。



松村 佳織

今年度麻酔科に入局させていただきました松村佳織です。奈良県立医科大学を卒業後同附属病院で2年間初期研修しました。初期研修中に麻酔科をローテートさせて頂き、麻酔科の先生方の循環呼吸管理をはじめとする全身管理をされている姿に憧れ麻酔科に進むことを決めました。現在引き続き大学病院で後期研修をさせて頂いていますが、日々様々な症例を経験でき、また上級医の先生はいつも丁寧に指導してくださり本当に充実した研修をさせて頂いていることに感謝しております。至らぬ点も多く、ご迷惑おかけしてばかりですが、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



山仲 貴之

初めまして、今年度新入局させていただきました、山仲貴之と申します。出身大学は、兵庫医科大学ですが、生まれ育ちは奈良で、地元奈良に帰って来た形になります。

奈良県から医師確保修学資金をもらっていて、その中から、ポリクリなどでとても興味のある麻酔科医をめざそうと思いました。

個人的なことになります。2017年の2月に手術を受けました。手術自体は扁桃摘出術であったのですが、麻酔科医になる前に、全身麻酔を受ける患者さんの経験をすることができ、とても勉強になりました。

そして、SAS、いびきがなくなりました。

とてもよく睡眠を取れるようになり、快眠できるようになりましたが、最近またいびきらしきものが現れました。今度は手術では治らないので、痩せるように努力したいと思います。

今はまだまだ未熟で、ご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、ご指導程よろしくお願いたします。



山本 由美子

はじめまして、山本由美子と申します。出身は大阪です。

一度大学を卒業し臨床検査技師の資格をとり、主に睡眠検査を専門に働いていましたが、医師になる夢捨てきれず再受験して、奈良県立医科大学に入学しました。

卒業後は、市立東大阪医療センターでの初期研修2年間の

のち、本年4月から奈良医大で働いています。麻酔科医の仕事の奥深さに魅了され、入局させていただきました。

今は、熱心にご指導して下さる先生方に感謝感謝の毎日を送っています。早く多くの人々のお役に立てるよう頑張りたいと思っていますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

## ■奈良県立医科大学麻酔科学教室 医局・関連病院会 人事異動報告

<2017年10月>	前	後
中川	大学	東京女子医大
川瀬	市立奈良	母子保健
仲野	大学	市立奈良
榎本	大学	産休
<2017年11月>		
佐々木	大学	産休
<2017年12月>		
竹田	ベルランド	開業
北口美輪	大学	ベルランド
山田清恵	他病院	暁明館（入局）

## ■VIVA！おひとり様 - 「魚の旨い店 part.2」

大阪鉄道病院麻酔科 北川 和彦

以前、お伝えした事のあるカテゴリーの第二弾。筆者は普段から食に関して、とてもコンサバだと思っております。飽きもしないで、魚の造りに日本酒をずっとしている。これだけ魚を食べていると、否応なしに五月蠅くなってくるもので。今回ご紹介するお店は、店主こだわりの造り盛と日本酒自慢のお店です。秋の夜長は、魚料理を肴に是非一献。

### ◎魚匠 kaji

大阪府中央区淡路町3-6-12 大阪屋ローズプラザビル1F  
TEL 06-6231-2777

ビジネス街の雑居ビルの奥。木目と黒を基調としたシックな店内。まずは、必食の造り盛から。その大ぶりな切り身、豪快な盛り付け、どこかで見たことあるような。そう、和歌山発祥の海鮮割烹「銀平」、その流れを汲むことは明らかです。確かに、屋号の「魚匠」が物語

っているし。もちろん、魚のレベルの高さは言わずもがな。口いっぱい頬張って、日本酒を流し込む口福。店主が選んだ銘酒は、すっきり系から芳醇な燗向きまで、ほぼ一合800円均一。6人までの掘りごたつ式の個室もあるので、気の知れた仲間との宴会にもOK。コースは5000円一本。

### ◎まえだ家

大阪市中央区東心斎橋1-12-19 エイトビルディングB1F  
TEL 06-4256-4200

以前は難波の裏通りにありました。小さな居酒屋で、まず知らないと通り過ぎてしまう、そこに極上の魚がありました。それが心機一転、今年の7月に東心斎橋三休橋筋近くにお引越し。敷地面積は以前の3倍を超えている。なが〜いカウンターにテーブルが数席となっており、おひとり様から大勢の宴会までいろいろ使えそう。仕入れは有名和食店も仕入れる中央市場の鮮魚店。そのコネクションを築けたのは、店主が以前に勤めていたからです。「エースで4番」と銘打った造り盛は、ざっと10種類。日本酒は数店の酒屋からの仕入れで、20種以上。半分飲んで後燗付けて、なんて我儘にも気さくに答えてくれる。前店に2人で



## ■No 麺s, No Life!

奈良県立医科大学 新城 武明

### 「家系ラーメン」

「家系ラーメン」と呼ばれる系統のラーメンをご存知でしょうか。

…家系ラーメンは1974年以降に登場した神奈川県横浜市を発祥の豚骨醤油ベースで太いストレート麺を特徴とするラーメンである。ラーメン店「吉村家」を源流とする。横浜ラーメンと呼称されることも多い。もともと「〜家」とついているところが多かったところから、家系と呼ばれるようになった。店名の「家」はほとんどが「や」と発音するが、「家系」は「いえ」と発音する。豚骨や鶏ガラからとった出汁に醤油のタレを混ぜた「豚骨醤油ベース」のスープ、太麺とホウレンソウ、チャーシュー、海苔のトッピングで構成される。… 以上 Wikipedia より

創始者の吉村実さんは九州の豚骨と東京の醤油を混ぜてみたそうです。発想が素晴らしい。ちなみにこの豚骨醤油ベースのラーメンは日本・海外を含めて約1000店舗あるとのこと。現在日本のラーメンの主流とって過言ではないと思われます。



今月の一杯

吟風 赤羽店

場所：東京都 北区赤羽

麺：太麺・細麺 選択可 ストレート

種類：ラーメン・つけ麺もあり

スープ（ラーメン）：豚骨・鳥ガラ 醤油豚骨（こってりめ）

サイドメニュー：餃子、ご飯、など ご飯無料！

トッピングはチャーシュー、煮卵、ほうれん草に大きい海苔。この組み合わせは家系のオーソドックスなスタイルです。出汁のベースは豚骨ですが、他の出汁が混じって食べやすい感じ。同じ豚骨でも博多ラーメンはほぼ豚骨のみの味になるのでこってりさは薄まるはず……。なのですが、なぜか博多ラーメンよりこってり。背脂が多いんでしょう。このスープならば関西でもよく味わえます。ああ、そういえば1000店舗あるんだしたね。よく言えばオーソドックス。悪く言えばどこにもある味。いわゆる豚骨醤油。この味はほぼ出来上がっており、ここから独自色を出すのはなかなか難しいような気がします。

それと、トッピングですが、関西では海苔が入っているのは少ないです。（たぶん）海苔にこだわりがあるとは、筆者には理解しがたいものがあります。いるでしょうか？ラーメンに海苔……。



### 編集後記

今年も新人が多く入局してくれました。うれしい限りです。

また中川先生が本学から東京女子医大に転勤されました。先生の益々のご活躍を祈念しております。



## 麻酔科領域情報「スペシャルコンテンツ」のご紹介

<https://www.msconnect.jp/>

今すぐサイトへアクセス！



### 麻酔科学の歴史

**TIMELINE [年表]** 古代から現代までを網羅・俯瞰できる便利なタイムライン

**EPISODE [物語]** 先駆者の情熱や功績を当時の技法とともに描いたエピソード

〈監修〉武田 純三 先生 慶應義塾大学 名誉教授/杏林大学医学部 客員教授/医療法人健育会 顧問  
松木 明知 先生 弘前大学 名誉教授

### TOFウォッチ® マスターマニュアル

加速度トランスデューサの取り付け

表面電極、電極クリップに関するエラー

臨床に役立つ内容を動画で紹介

〈監修〉鈴木 孝浩 先生 日本大学医学部 麻酔科学系麻酔科学分野 主任教授

**MSD MSD株式会社**  
東京都千代田区九段北1-13-12

製品のお問い合わせ先  
MSDカスタマーサポートセンター  
医療関係者の方 ☎ 0120-024-961  
<受付時間>9:00~17:30(土日祝日・当社休日を除く)

2017年5月作成  
BRI17AD018-0522